

させぼ夢大学

発行●させぼ夢大学広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.190 <2011・1>

平成22年度
第9回

2011年 1月20日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

手にとるように日本の歴史を分かりやすく、楽しく教えてくれる! テレビやたくさんの著作でおなじみの加来耕三さんが、いよいよさせぼ夢大学にご登壇。

『その時歴史が動いた』『アインシュタインの眼』(NHK)、特別番組『日本の歴史』『タモリのヒストリーX』(フジテレビ)など、監修・構成、企画、出演という形で携わってこられた番組は数え切れないほど。執筆された本も数限りなく、現在も各大手出版社からハイペースで出版され続けています。これらの本の中には、大河ドラマ「龍馬伝」をきっかけに、昨年の大きな話題として盛り上がった「坂本龍馬」についても、主人公龍馬を巡る人々のエピソードを、イメ



ージが映像として湧いて来るように記しておられます。その時、その人物の収入がどうなっていて、どんな理由で、何を目指して、どう行動したか…など分かりやすく周辺の事象を掘り上げ、その人となりを実感に感じ取ることができるのです。

加来さんから歴史を学ぶと、テレビドラマの鑑賞も、さらには日本史の勉強さえも楽しくなりそうです。「歴史に学ぶということは、時代の流れを読み、その法則性を掴み、未来を考えることにつきます」という加来さんのメッセージは、今の日本にとって、とても大切なことだと思いませんか?

どうぞご期待ください。

か く こうぞう
歴史家・作家●加来 耕三氏

テーマ●歴史から学ぶ知恵



次回のご案内

- と き / 2011年2月17日(木)
- 講 師 / 女優 倍賞 千恵子氏
- テーマ / 歌うこと、演じること、そして生きること

●東京都生まれ。昭和35年、松竹音楽舞踊学校を首席で卒業。同年松竹歌劇団(SKD)へ入団。36年松竹映画「斑女」でデビュー。37年、「下町の太陽」でレコード大賞新人賞を受賞。44年映画部門では4人目の芸術選奨文部大臣賞を受賞。「男はつらいよ」のさくら役に代表される庶民派女優として、延べ164本に出演。また、歌手としても親しまれ活躍中。著書に「お兄ちゃん」「倍賞千恵子・お料理の知恵袋」がある。

加来 耕三 氏のプロフィール

●昭和33年大阪市生まれ。56年奈良大学文学部史学科を卒業し、研究生活を経て、59年より、奈良大学文学部研究員。現在は、大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家としての独自の史観に基づく著作活動を行っている。また、テレビ等の番組監修・構成・企画・出演などの依頼も多く、携わった番組には「その時歴史が動いた」「アインシュタインの眼」(NHK)、「タモリのヒストリーX」(フジテレビ)などがある。「歴史研究」編集委員、内外情勢調査会講師、政経懇話会講師等も務める。





鎌山矩幸氏

本気で怒れ!

佐世保市大瀧町 松尾 真彦

大型の力士がぶつかり合う迫力は魅力的だ。しかし、それ以上に軽量の力士が大物を打ち負かす、これこそ大相撲の醍醐味だ。どんな時でも、ひたむきな闘志を見せた土俵の寺尾関がその見本、ずつとファンだった。最近はその魅力のある力士が少ないのは残念である。

とても親近感のもてる語りで、少年期からいじめや挫折を体験しながら、その悔しさをバネに自らを高めてきた相撲人生に感動を覚えた。ことに、相撲の道を選び、厳しい修行や鍛錬を通して大成し、引退するまで「大きな転換期には、父の厳しさ、母の慈愛、子供の想いがあった」と、ほろりとさせられた。

講演中スクリーンに映し出された手の大きさに驚いた。突っ張りの寺尾関、どれほど鍛え上げたのだろうか、直に拝見したいものだと思います。

相撲界の不祥事を憂い、自らの責任をもと丸坊主に。その心意気と姿勢に改革の可能性を強く感じた。「本気で怒る」の信念のもと信頼回復の旗手としての期待は大きい。

近藤理事長さんからは、次年度の講師紹介があった。二十周年とはいえ、そのすごさに歓声が挙がった。一市民大学でこれだけの講師を揃えることの出来る「させぼ夢大学」とは!! その実力を頼もしく誇りに思う。次年度が楽しみだ。

一枚一枚の紙で折り上げた一輪一輪のバラの集大成、更には幼児



■バリトン歌手 西田祐樹さんによる「九十九詩人」の重厚なる歌唱に、この曲のもつ自然の雄大さを表現した阿久悠・羽田健太郎さんに感謝して拝聴いたしました。来年20周年の豪華メンバーの講師を紹介され、理事長はじめスタッフの方のご努力に厚くお礼申し上げ、入学したいと思えます。佐世保親方の人情味ある話の中で「本気で叱りスッキリ止める」指導も大いに期待したいと思います。

佐世保市大和町●宅島 富士彌

■16歳・高2の時に最愛の母を亡くしたのを契機に父の井筒部屋に入門。39歳で引退するまで23年間、他の人よりも長い相撲人生を歩まれた。寺尾の愛称でファンを喜ばせてくれました。特に、10歳年下の貴乃花だけには負けたくなかった、ガッツある相撲でした。親方としての弟子の指導、怒る時は本気でズバット! 参考にします。

佐世保市桜木町●原 敏朗

■39歳まで楽しませて頂きご苦労さまでした。すっかり板につかれた親方に安心しました。不祥事の続く相撲界ですが、うみはすべて出たとおられますので、鎌山親方をはじめ他の親方とも協力して、日本人の横綱の育成を期待しております。それから、個性派のお相撲さんが少なくなってきた感じがします。寺尾さん、舞の海さん、水戸泉さん(塩をたくさんまく方)など、相撲人気の復活を待っています。

佐世保市早岐二丁目●江上 清美

■話題は、入門のいきさつ、勝負の世界の厳しさ、ちゃんこ鍋のおいしさ、お母さんの愛情のことなどであった。あらゆる試練を乗り越え、16歳から39歳まで現役を続けた力士で、天晴れこの上ない。いつまでも元気で日本相撲協会のますますの隆盛を担いでほしい。私は、テレビの砂かぶりで見よう。初日が待ち遠しい。

佐世保市松川町●杉山 源次郎

■鎌山親方のお話のように、真剣に怒るのはグダグダと長い説教よりも効果大であるように思います。何事にも、優しくドクドクとお話をするより、神経にドカーンと響く言葉と怒り方がベスト、いやベターと思いますが、いかがでしょうか。ただし、アトは普段の接し方にすぐに戻るのがベストと考えます。いつまでも引き摺っては効果ありませんから……。

佐世保市折橋町●田口 清紀

■母上の命と引き換えに相撲界入りを決心され、何度となく悔しい思いを繰り返しながら、それを「ばね」にして角界に伍してこられた氏の相撲人生と伺ったが、引退を決意なさったのはお子様の一言によるものだったと聞いて、ご家族の中に相撲という大きな因子が存在しているように感じた。今や親方として「弟子の盾になってやれたら」とその責任を重視し、後進の指導に意欲的に取り組んでおられる。「若手力士の将来にかけるべき」と言われたが、日本の国技である相撲が愛され親しみを持てるような起爆剤になって欲しい。

佐世保市京坪町●太郎浦 幸子

宗教以前

佐世保市田原町 藤井 文夫

の可愛い飾りのツリ、その内なる素晴らしさをも鑑賞したい。これも夢大学ならではということ。こうしたものにはふれるよるこびと心の豊かさを有り難く思っている。

日本古来の伝統の中に「道」のつくものが多い。柔道・剣道をはじめとして華道・茶道・空手道・合気道などがあり相撲道もある。そしてこれらはすべて新渡戸稲造

のいう「武士道」につながっているように思われる。

宗教のない日本で善悪の観念を授けた宗教以外のものとは武士道以外にはありえないのではないだろうか。その中身は現代の物と情報報の溢れる社会と掛け離れた質実剛健・清廉潔白の社会を己の拠り所としていたのではないだろうか。武士たちにとって精神の墮落と気ままな贅沢は人格の形成に悪影響を与えるものとして恐れるべきものと考えられていた。

この度の大相撲の不祥事は日本古来の精神をないがしろに貶め、

夢広がる新年
明けまして
おめでとうございます



させぼ夢大学

理事長 近藤 正人
副理事長 尾形 ひろみ
副理事長 古賀 良一
事務局長 久田 和之

夢のひろば

- ◆ 日 時 / 1月20日(木) 午後6時00分～20分
- ◆ 演 目 / 邦楽演奏
- ◆ 出 演 / 山本茜山 菊雅楽孝子 菊昴雅奈決
- ◆ 出演者紹介

山本茜山 (本名 山本喜代治)
 長崎県立大学名誉教授・特任教授
 新都山流竹琳軒大師範、新都山流評議員、新都山流長崎県支部長、「茜山会」主宰、「尺八ぶ〜の会」主宰
 平成13年度都山流尺八本曲コンクール全国大会優勝

菊雅楽孝子 (本名 山本孝子)
 沢井忠夫、沢井一恵、菊雅敏子に師事、生田流箏曲・野川流三絃大勾当大師範、「菊の会」主宰
 長崎県立大学シールト校邦楽部講師
 長崎県立清峰高校邦楽部講師

菊昴雅奈決 (本名 山崎奈央)
 沢井忠夫、沢井一恵、菊雅楽孝子に師事、生田流箏曲・野川流三絃中勾当、「菊の会」所属
 賢順記念箏曲コンクール奨励賞受賞

「茜山会」と「菊の会」は、国内はもとより海外でも幅広い演奏活動を行っており、好評を博しています。昨年12月には「菊の会」創立40周年の記念演奏会を開催しました。

◆ 曲 目

1. 「八千代獅子」 藤永校校 作曲
江戸時代中期の作品で、曲の中に八千代という言葉が入っているため「八千代獅子」と呼ばれています。今の世がいつまでも変わらないことを願う、めでたい曲です。三絃と尺八の合奏でお聞きください。
2. 「雪ものがたり」 沢井忠夫 作曲
まっ白い雪は幻想的で、私たちが夢の世界にいます。しかし、時には吹雪となって激しく荒れ狂います。そんな雪の情景が、箏、十七絃、尺八の三重奏で表現されています。
3. 「春の海」 宮城道雄 作曲
昭和5年の勅題「海辺の巖」にちなんで作られた曲で、のどかな春の海の情景が箏と尺八の二重奏で見事に表現されています。フランスの女流バイオリニスト、ルネ・シュメーとの共演で世界的に有名になりました。

西田祐樹さんのバリトン独唱



九州場所の終了後、大相撲の時津風部屋が五島市で合宿をしていた。そこは連日見物人で賑わい、子どもたちも力士と一緒に相撲を楽しんでいたという。このようなことも相撲の普及に、相撲ファンの倍増に繋がると思う。

相撲は日本古来の競技であり、子どもから大人まで相撲人口は少なくないと思う。高校や大学では相撲部の設置が多く、それぞれに大会が開催されている。また、地域によっては五穀豊饒と関わって、神社境内において子ども相撲を伝統的に取り入れ継承している所もある。ともあれ、相撲は後世に引き継ぎたい日本固有の競技である。大相撲は、一日も早く盛況を取り戻して欲しいと思う。

悔しさをバネに ひたむきな闘志を 燃やし続けた熱血漢!

角界の改革に期待

佐世保市南風崎町 横山 春美

毎回、講演に先立つ「夢のひろば」も楽しみにしている。今回は西田祐樹さんのバリトン独唱。その熱唱に聴き入った。特に地元ゆかりの「長崎の鐘」や「九十九詩人」が良かった。地元出身の歌手として今後の活躍に期待したい。

日本人を侮辱し国教のない日本人を笑いものにしたも同然である。大相撲関係者の皆さんは苦痛に近い哀しみ、どうしようもない憤りを感じていたのではないだろうか。時には激しく、時には悲しく相撲界に生きる人々の有様を率直に語るかつてのプリンス三男坊から、日本伝統武芸の相撲界の親方に生まれ変わろうとする姿に映った。がんばれ鏡山!!

まずは冒頭に相撲ファンへの感謝を述べ、そして一連の不祥事に対するお詫びを表明。信用回復の決意を吐露。その中で、不祥事を起こした本人は勿論悪いが、それを惹き起さないように指導できなかった親方の監視不行き届きが最大の原因との持論を激白。親御さんから弟子として預かったからに

近藤理事長さんから来期のライオンナップが発表されたが、夢大が創立二十周年のスペシャル企画の宇崎童謡ライブなど、多彩な顔ぶれが楽しみなだ。

今回の講師は鏡山親方。現役時代は体格には恵まれてはいなかったが、一所懸命に土俵を努めたその真面目な姿勢は印象的だった。端正な顔立ちで特に女性に人気があったことは記憶に新しい。講演も真面目さそのものずばりの内容だった。

謝を述べ、そして一連の不祥事に対するお詫びを表明。信用回復の決意を吐露。その中で、不祥事を起こした本人は勿論悪いが、それを惹き起さないように指導できなかった親方の監視不行き届きが最大の原因との持論を激白。親御さんから弟子として預かったからに

は、親方はきちんと弟子を育てる責任がある。それができていないから今回のような不祥事につながったのだと、弟子をかばいつつ話された。最後の締めでも、一連の不祥事に対して、皆で責任をとらなければならぬと、相撲協会あがての改革が必要と強調。指導の具体的な方針として、「本気で怒る」「同じ事で怒らない」「心の傷は治らない」との弁。この指導方法で鏡山部屋からは幸い不祥事は起きていないとのこと。

鏡山親方の姿勢に協会全体が賛同し、全力で真剣に改革に取り組みで欲しい。それができなければ相撲界の将来に展望はないのではないか。鏡山親方の熱弁により改革への期待が膨らんだ。今後とも角界で確固とした持論を展開し、改革のために大いに頑張っていた

関取になるまで(弟子時代)の一日は、長時間の練習、同部屋の関取を始めとする先輩の世話など多忙極まりなかったと回顧される。目標を明確にしてやりとおす強い精神力がなければ続けられないことだと思ふ。勝負の世界、勝たねばならない。負けて悔しいのは人

講演を聴かれた感想をお待ちしています!

※締め切りは講演日の1週間後(必着)
※宛先は、させほ夢大事務局まで

大相撲の盛況を!

西海市西彼町 瀬戸崎 齊

見事な つっぱり相撲



情、その悔しさを練習にぶつけ、心労に耐え、日々己の技を磨いていく人が栄光の座を手にするのである。

鏡山師匠は、相撲の素晴らしさを伝えるため、ホームページで部屋状況を提供したり、番組出演、今日のような講演活動をなさっておられるとのこと、相撲界が今一つ盛り上がり、欠け中であって、大変有意義なことだと思ふ。

九州場所の終了後、大相撲の時津風部屋が五島市で合宿をしていた。そこは連日見物人で賑わい、子どもたちも力士と一緒に相撲を楽しんでいたという。このようなことも相撲の普及に、相撲ファンの倍増に繋がると思う。

相撲は日本古来の競技であり、子どもから大人まで相撲人口は少なくないと思う。高校や大学では相撲部の設置が多く、それぞれに大会が開催されている。また、地域によっては五穀豊饒と関わって、神社境内において子ども相撲を伝統的に取り入れ継承している所もある。ともあれ、相撲は後世に引き継ぎたい日本固有の競技である。大相撲は、一日も早く盛況を取り戻して欲しいと思う。

ふるさと紀行 九十九島の 民話

9

かなしげじま
「金重島」「オジカ瀬」

佐世保工業高等専門学校
澤田 彰

が、とうとう完成することが出来ませんでした。その後、この島にお金を重ね賭けたことから、この島が「金重島」と呼ばれるようになったということですね。

（この島で金や銀が採れるという噂があり、実際に掘りに行っただけは残っていて、わずかに「印山記」にしろすとその故事を偲ばせています。）

また、こんな話もあります。大崎鼻の南西半キロの海上にあるこの島は、小島郡の九十九島の中では、かなり大きな島ですが人は住んでおらず、島の南端に加雲岩と呼ばれる、大きな岩があり、ほこらがありません。

■金や銀がいつぱいあると思われた「金重島」

―戦国武将の非業の死を
伝える加雲岩伝説―

むかし、この島には大蛇が棲んでいて、島の大きな岩の溜まり水を飲んで暮らしていました。ところが、ある石屋がその岩を崩してしまい、石屋は大蛇の呪いで死んでしまいました。今でも水がわき出ているところがあります。

またこんな話もあります。

戦国時代に、この島にお城を建てようとして、お金を賭け、人を使って築こうとしたが、もう少しというところで台風に遭い、築くことが出来ませんでした。次の殿さまも何回も何回も、その次の殿さまもお金を賭けた

（佐々加雲の墓と伝えられるものは、早岐の堂山という所にある。）

だが、今も島の南端に加雲岩だけは残っていて、わずかに「印山記」にしろすとその故事を偲ばせています。

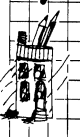
（戦後は米軍の海水浴場になっていたが、その後、日本人にも開放され、昭和三十年代頃から市民は海水浴やキャンプ等を行っている。）

■潜水艦と間違われた島「オジカ瀬」

戦時中、この島影が潜水艦のように見えたため、米軍がこの島を誤爆し、沢山の魚が死んだそうです。



学生優先申込書のご活用を!



お預けください。

★2月中旬、受講料振込用紙の郵送
★3月下旬、学生証の郵送

●平成23年度の講師さんが決まりました!

19期の講演会は、講師さんのご都合で期日の変更がありました。幸いなことに、2年連続で予定通り進んでいます。創立20周年を迎える来期も政治、経済、音楽、スポーツなど幅広いジャンルから著名な講師さんをお願いし確定しました。どの講師さんも大変ご多用ですが、これまでお願いした講師さんは「させば夢大学なら」とご快諾くださったのか。学生の皆様とともに築いた19年の実績が成せる技かもしれません。本当にありがたいことです。

しかしながら、諸般の事情で予定を変更せざるを得ないこともありますので、予めご理解ください。

★講演会欠席の方は、お知り合いに

先受講申込書をご活用くださると安心です。

なお、翌朝は新聞5紙に募集要項を折り込み広報します。学生以外の方からの応募が殺到することが予想されます。あつと言間に先着二千名となりそうです。学生優先受講申込書をご活用くださると安心です。

平成23年度(第20期)講演会予定

- 平成23年
- 4月21日(木) 開講式 三宅 久之氏
 - 今 政治に何が起きているか
 - 5月19日(木) 高木 美保氏
 - 命を感じる田舎暮らし
 - 6月16日(木) 舞の海 秀平氏
 - 夢は必ず叶う
 - 7月21日(木) 小山 明子氏
 - 二人三脚で乗り越えた介護の日々
 - 9月15日(木) 茂山 千五郎氏
 - お豆腐狂言
 - 10月20日(木) 志方 俊之氏
 - 今後の世界情勢と日本の課題
 - 11月17日(木) 宇崎 竜童氏・阿木 権子氏
 - 宇崎竜童&阿木権子 トーク&ライブ・人生歌と共に
 - 12月15日(木) 森谷 敏夫氏
 - 生涯現役のための“なるほど”健康科学
- 平成24年
- 1月19日(木) ジュディ・オング氏
 - 輝いて生きる
 - 2月16日(木) 藤原 正彦氏
 - 日本のこれから、日本人のこれから